



Title	人間科学部Webページの開設と運用
Author(s)	原田, 章; 三浦, 麻子; 西端, 律子 他
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2000, 26, p. 157-176
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/4903
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

人間科学部公式 Web ページの開設と運用

原田 章	三浦 麻子	西端 律子
篠原 一光	田中 重人	平井 啓

目 次

- 1 はじめに
- 2 公式ページの概要
- 3 アクセスログの解析
- 4 公式ページに関する質問紙調査

人間科学部公式 Web ページの開設と運用

原田 章* 三浦麻子† 西端律子
篠原一光 田中重人 平井 啓

1 はじめに

日本インターネット協会編「インターネット白書'99」によると、1999年2月時点での日本のインターネット人口は、1,508.46万人であり、昨年度の同時期と比べて、49.4%の伸びであるという。また、世帯浸透率（インターネットを利用している人が一人はいる世帯の割合）は、20.27%となっており、家庭へのインターネット普及が進んでいることが伺える。

このようにインターネットが普及する中で、1998年12月10日、人間科学部の公式 Web ページが開設された。Web ページを閲覧するための URL (Uniform Resource Locator) は、

`http://www.hus.osaka-u.ac.jp/`

である。図1は、この URL を WWW ブラウザで閲覧したときに表示されるページで、「トップページ」と呼ばれることもある。

著者らは、この公式 Web ページ作成のために、人間科学部の広報委員会の下部組織として招集された「公式 Web ページ作成ワーキンググループ」のメンバーであり、Web ページの作成および Web サーバの管理運用を行ってきた。本論文では、この“人間科学部公式 Web ページ（以後、「公式ページ」と呼ぶ）”の概要および開設から約一年間のアクセス状況、公式ページに関して行った調査の結果などについて報告し、今後の方針について検討したい。

2 公式ページの概要

公式ページは、英語版と日本語版があるが、英語版は学部と大学院に関する簡単な紹介文が掲載されている。以下は、日本語版の内容である。

*1～3 章担当

†4 章担当

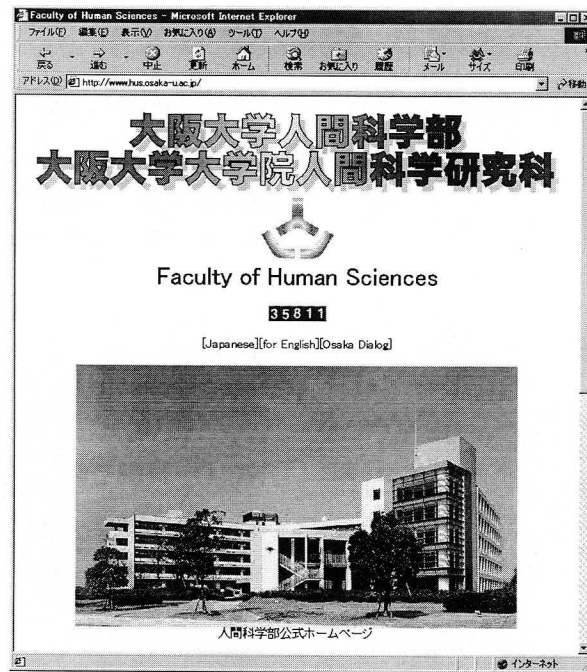


図1 人間科学部公式ページ（トップページ）

2.1 定期的に公開している情報

公式ページで定期的に公開している主な情報は、

- 人間科学部の紹介
- 組織(人間科学部と人間科学研究科の組織図)
- 沿革(人間科学部の歴史)
- 附属比較行動実験施設
- 人間科学部へのアクセス(交通機関)

である。「人間科学部の紹介」には、さらに、

- 人間科学部長挨拶
- 人間科学部とは？(人間科学部の理念など)
- 人間科学部で学べば(4年間のスケジュールや取得できる資格など)
- 人間科学部あれこれ(人間科学部にある施設の紹介)
- 人間科学部の授業
- 講義の授業科目リスト
- 人間科学部の時間割とシラバス
- 講座紹介
- 教員紹介
- 卒業生の進路

といった情報が公開されている。

公開内容は、人間科学部の紹介パンフレットにあるものをもとにしている。「講座紹介」では、各研究室の Web ページへのリンクも作成してあるので、研究室が Web ページを持っていれば、その研究室の情報をさらに詳しく見るができるようになっている。ただし、各研究室の Web ページはその研究室での自主的な運営によるものであり、公式ページのワーキンググループはその内容に関しては一切関知していない。

2.2 非定常的に公開する情報

公式ページには、人間科学部で開かれる学会の情報や緊急の情報といった期限付きの情報についても「お知らせ」と呼ばれるコーナーに公開している。これは、依頼があったときに随時公開するものであるが、これまであまり利用されていない。

2.3 学内向け情報

公式ページとしては、学内向けの情報は公開していないが、人間科学部の部内ネットワークを管理している ODINS 運営委員会が管理している Web ページへのリンクを「ネットワークサポート」として用意している。

2.4 入試に関する情報

入試に関する情報は原則として、人間科学部の公式ページでは公開していない。これは、入試に関する情報が大阪大学の公式ページ¹⁾で公開されているためである。ところが、Web ページ開設当初、入試に関する記述が何もなくあったため、入試に関する多数の問い合わせがあり、その対応に苦慮した。そこで、現在では、「入試に関する情報」として大阪大学へのリンクを用意し、

電子メールによる選抜要項、募集要項の請求は、ご遠慮ください。

と記載してある。

3 アクセスログの解析

ここでは、人間科学部公式ページがどのような人達から見られているかの一端を示すため、Web ページのアクセスログを使ったデータを紹介する。

3.1 アクセスログとは

Web ページを管理しているサーバは、管理している Web ページにアクセスがあった場合、どのコンピュータからアクセスがあったかをアクセスログという形で記録してい

```

hs 71 d 012.hus.osaka-u.ac.jp --[23/Nov/1999:03:02:35+0900] "GET/HTTP/1.0" 200 2671
hs 71 d 012.hus.osaka-u.ac.jp --[23/Nov/1999:03:02:35+0900] "GET/images/logo.gif HTTP/1.0" 200 2771
hs 71 d 012.hus.osaka-u.ac.jp --[23/Nov/1999:03:02:35+0900] "GET /images/jinka 2.jpg HTTP/1.0" 200
31806
hs 71 d 012.hus.osaka-u.ac.jp --[23/Nov/1999:03:02:45+0900] "GET /gakubu/ HTTP/1.0" 200 1618
hs 71 d 012.hus.osaka-u.ac.jp --[23/Nov/1999:03:02:45+0900] "GET /gakubu/images/title-jinka.gif
HTTP/1.0" 200 6159
hs 71 d 012.hus.osaka-u.ac.jp --[23/Nov/1999:03:02:45+0900] "GET /images/flower.jpg HTTP/1.0" 200
12913
hs 71 d 012.hus.osaka-u.ac.jp --[23/Nov/1999:03:02:49+0900] "GET /gakubu/kouza/ HTTP/1.0" 200 9508
hs 71 d 012.hus.osaka-u.ac.jp --[23/Nov/1999:03:02:53+0900] "GET /gakubu/kouza/kouza-vhs.html
HTTP/1.0" 200 3482
hs 71 d 012.hus.osaka-u.ac.jp --[23/Nov/1999:03:02:53+0900] "GET /gakubu/kouza/image/vol.jpg
HTTP/1.0" 200 12236
robot.kokono.net --[23/Nov/1999:03:04:51+0900] "GET /robots.txt HTTP/1.0" 404 281
spider.infoseek.co.jp --[23/Nov/1999:03:05:06+0900] "GET /robots.txt HTTP/1.0" 404 281

```

図2 公式ページのアクセスログ (一部)

る。人間科学部の公式ページにおいても同様に、Web ページの公開以降、どこからアクセスがあったかを記録、保管している。

図2は、そのアクセスログの一部である。図の1行目を見ると、“**hs 71 d 012.hus.osaka-u.ac.jp**”というコンピュータが「1999年11月23日 3時2分35秒」に“/”へアクセスしたということが分かる。“/”は、公式ページのルートディレクトリを示すので、「トップページ」へのアクセスである。

3.2 解析手順

上述したアクセスログを使って、人間科学部公式ページへのアクセスを次のように行った。

解析期間 解析期間は、1998年12月から1999年10月までとした。

解析対象とした Web ページ 解析対象には、公式ページのトップページを選んだ。トップページ以外のページへ直接にアクセスする場合も考えられるが、通常、まずトップページにアクセスし、そこからリンクをたどって個々の情報を閲覧するということが多いと思われることから、本論文ではトップページへのアクセスのみを検討することとした。

アクセス先の分類 アクセス先は

hs 71 d 012.hus.osaka-u.ac.jp

のように、インターネットアドレスと呼ばれる形式で分かるようになっている。このアドレスはピリオドによって区切られており、最初の文字列がアクセスしたコンピュータの名前で、それ以降がそのコンピュータが所属するネットワークの名前（ドメイン名という）になっている。さらに、ネットワークの名前には通常、そのネットワークが所属する国と所属している組織の種別が分かるようになっている。例えば、日本国内のコンピュータであれば、アドレスの末尾に“**jp**”がつく²⁾。また、所属している組織が学術機関であれば、国名の前に“**ac**”、企業であれば“**co**”、政府機関であれば“**go**”がつく。さらに、家庭でのインターネット接続を代行する業者である「インターネットプロバイダ」では、通常、“**ne**”や“**or**”を用いる。

そこで、このインターネットアドレスの仕組みを利用して、アクセス先を次のように分類した。

1. 人間科学部内のコンピュータ(**hus.osaka-u.ac.jp**)
2. 大阪大学内のコンピュータ(**osaka-u.ac.jp**)で1.以外のもの
3. 大阪大学外の国内学術研究機関のコンピュータ(**ac.jp**)
4. 大阪大学外の国内コンピュータで3.以外のもの(**co.jp**, **or.jp**, **ne.jp** など)
5. 国外のコンピュータ(**jp** 以外)

また、アクセス先が分類できないもの、すなわちアクセス先のマシン名が分からなかったものを「その他」とした。

3.3 解析結果

1998年12月から1999年10月までのアクセス数は、全部で32,712であった。これをアクセス数の月別推移と、時間帯別推移に分けて解析した結果について述べる。

アクセス数の月別推移 図3は、アクセス数の月別推移を表したものである。図の縦軸は、ある月の一日当たりの平均アクセス数をアクセス先別に表している。

全体的に見て、1999年7月まではアクセス数が増加傾向にあったと思われるが、8月から1日当たり100件程度のアクセスに留まっているようだ。一般に、更新の多いページはアクセス数も多くなるので、この原因は、公式ページの更新がほとんどないためであると思われる。したがって、公式ページの中に、もっと頻繁に更新されるような内容が増えれば、この状況は変わるとされる。この点については、後述の質問紙調査のところで論じることとする。

また、アクセス先についてみると、学外からのアクセスが多いことが分かる。調査期間を通して、他大学からのアクセスが多いと思われる「学外：学術機関」が全体の

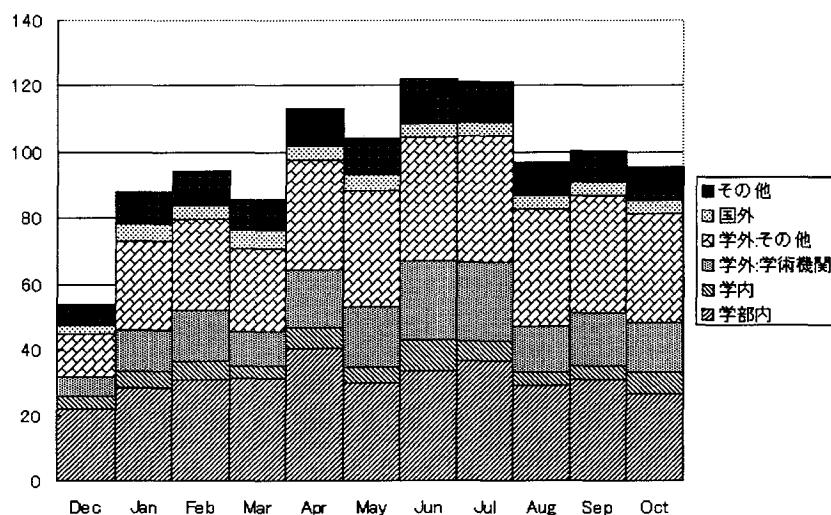


図3 アクセス数の月別推移

10%から20%程度、「学外：その他」が全体の30%を占めている。この「学外：その他」の中でアクセス数の多かったのは、ドメインに“**ne.jp**”を含むもので、企業からのアクセスを表す“**co.jp**”を含むものは少なかった。このことから、インターネットプロバイダを使ってアクセスしている人が相当数いることが分かる。

公式ページのひとつの目的が学外に向かって人間科学部の情報を公開することにあつたとすれば、これは当然の結果であるかもしれない。しかし、人間科学部内部からのアクセスが少ないということは、内部の教官や学生から見れば、一度見ればことが足りる程度の内容しか公開できていないということになる。今後、人間科学部内部の学生にも有用な情報を提供できるかどうかが問題であろう。

アクセス数の時間帯別推移 図4はアクセス数の時間帯別推移を示したものである。縦軸は、ある時間帯（ t 時00分00秒から t 時59分59秒まで）の一日当たりの平均アクセス数をアクセス先別に表している。

この図から明らかなように、学内と学術機関からのアクセスは日中に多く、プロバイダからのアクセスを多く含む「学外：その他」からのアクセスは夜間に多いことが分かる。このことから、プロバイダ経由で公式ページを閲覧しているのは、自宅にインターネット接続環境を持つ個人が多いことが予想される。この中には、人間科学部に所属する学生や教官も含まれると思うが、具体的にどのような人がプロバイダ経由で見ているのか特定するのは難しい。

3.4 アクセスログの解析に関する考察

アクセスログを解析すると、学外からのアクセスが学内からのアクセスに比べて多い

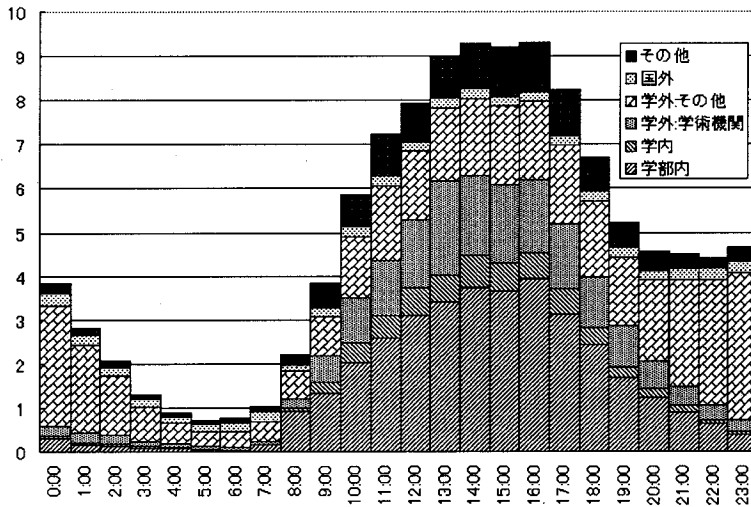


図4 アクセス数の時間帯別推移

ことが分かった。これは先にも述べた通り、公式ページの内容が学内向けには十分ではないことを示していると思われる。では、学外からアクセスしている人は、公式ページのどの情報に関心を持って見に来ているのだろうか？

ひとつは、大学院の入試に関する情報である。入試情報に関する記載が、公式ページになかった頃、Web ページの内容に関する問い合わせとしてもっとも多かったのは大学院の入試に関係する情報についてであった。ところが、入試関係の情報に関して、大阪大学の公式ページにリンクを作成してからはそういった問い合わせはほとんどなくなった。このことから、大学院の入試に関する情報を求めて公式ページを閲覧する人は多いようである。

また、最近、問い合わせのメールの中に、大学受験を控えている高校生からのものと思われるものが増えつつある。高等学校では、2003年から教科「情報」が必修になる予定であり、現在大学で行っているコンピュータリテラシー教育の一部が高等学校で教えられることになる。それに伴って、大学受験のために、公式ページを利用する高校生が増えることが予想される。今後、このような事態にも対処できるようなページ作りをしていくことが必要であろう。

次に、人間科学部に所属する教官や学生にとっても有用であるようなページを作るにはどうしたらよいかという問題もあるが、それについては、次節の質問紙調査のところで触れることとする。

4 公式ページに関する質問紙調査

4.1 目的

この質問紙調査³⁾の目的は、人間科学部関係者（教官・学生）を対象として、人間科学部公式ページに関して、1)被閲覧状況 2)現在のページ全体・各コンテンツの評価 3)今後の改善・充実に関する要望を問い、将来的に公式ページをどのような形で拡充、運営していくべきかを探ることである。

4.2 方法

4.2.1 調査の実施および対象者

本調査は、質問紙形式で行われた。1)人間科学部教官 2)人間科学部学生 3)大学院人間科学研究科学生いずれも学部内関係者を対象として、1999年10月1日から20日にかけて大阪大学吹田・豊中キャンパスで配布・回収が行われた。

質問紙の配布・回収には、関係者の属性によって異なる方法がとられた。人間科学部教官については、調査責任者が全員のメールアドレスに質問紙を配布し、回答を終えた用紙を調査責任者のメールアドレスに投入するよう依頼した。1回生については、10月8日に豊中キャンパスで実施されたⅡセメスターのガイダンス時に、クラス担任によって配布・回収が行われた⁴⁾。2回生については、10月8日に吹田キャンパスで行われた専修希望調査時に、調査責任者によって配布・回収が行われた。3回生以上の学部学生、大学院学生については、公式ページ作成チームを中心に、各系の助手に協力を依頼して配布・回収が行われた。

4.2.2 質問紙の構成

質問紙は 1)全回答者を対象にした項目 2)公式ページを閲覧したことがある回答者のみを対象にした項目 3)公式ページを閲覧したことがない回答者のみを対象にした項目によって構成されている。以下にそれぞれの細目を示す。

■ 全回答者を対象とした項目

● デモグラフィック項目

教官 系・職位

学生 学年

● 公式ページを見たことがある／ない

● 見たことのある専攻・研究分野の Web ページ（多肢選択）

● 公式ページに載せてほしい情報（自由記述）

● 人間科学部以外の推薦 Web ページ（自由記述）

● 意見・要望（自由記述）

■ 公式ページ既閲覧者のみを対象とした項目

- 見た回数（定期的に見ている場合は頻度）
- 全体的な印象評価（5 件法）
 - － 読み込み速度（遅い－速い）
 - － レイアウト（見にくい－見やすい）
 - － 情報の量（少ない－多い）
 - － 情報の質（悪い－良い）
- 各コンテンツの印象評価（該当するものをすべて選択）

■ 公式ページ未閲覧者のみを対象とした項目

- 見たことがない理由（4 肢選択）
 - － インターネットに接続できる環境がないので見られない
 - － 興味がない
 - － 公式ページがあることを知らなかった
 - － その他（自由記述）

4.3 結果

4.3.1 回答者の属性

回収された質問紙325件のうち、回答が不完全なもの等を除いた318件について分析を行った。回答者の属性を表1に示す。

回答者の分布にはかなりの偏りが見られる。学生サンプルについては、ほぼ悉皆調査に近い形で調査が実施できた1回生、2回生の占める割合が非常に多い。上回生については、調査時期がセメスターの端境期に当たったこともあり、想定数よりもかなり少ない数の回収にとどまった。以降に述べる結果については、このことに十分留意した上で検討する必要があるだろう。また、教官サンプルについては、全員（配布当時84名）に調査用紙が配布されたにも関わらず、非常に回答率が低かった（21.4%）。このことは、人間科学部教官における公式ページへの関心度は未だ低いものであるという実状を反映する結果とも解釈できる。

表1 回答者の属性

属性	回答者数	%（対当該属性者総数）	%（対総回答数）
教官	18	21.4	5.7
1 回生	123	83.1	38.7
2 回生	106	70.7	33.3
3 回生	30	18.9	9.4
4 回生	10	5.3	3.1
大学院学生	22	8.6	6.9
研究生等	3	*	0.9
不明	6	*	1.9

表2 属性別の公式ページ閲覧状況 (%)

属性	既閲覧	未閲覧
教官	83.3	16.7
1 回生	22.0	78.0
2 回生	59.4	40.6
3 回生	56.7	43.3
4 回生	80.0	20.0
大学院学生	86.4	13.6
研究生等	66.7	33.3

表3 公式ページを閲覧していない理由

未閲覧の理由	%
接続できる環境がない	0.6
興味がない	19.7
存在を知らなかった	71.3
その他	8.3

表4 全体的な印象評価

評価項目	negative	moderate	positive
表示速度 (遅ー速)	35.8	47.0	17.2
レイアウト (悪ー良)	13.8	34.2	52.0
情報の量 (少ー多)	43.3	38.0	18.7
情報の質 (悪ー良)	21.9	53.6	24.5

4.3.2 閲覧状況

回答者全体では、1 回でも公式ページを閲覧したことがある回答者は154名(48.4%)であった。表2に回答者の属性別集計を示す。

属性別に見ると、入学してから日が浅い1 回生では未閲覧の割合が多く、学年が進行するにつれて閲覧者の割合が増加する傾向にある。未閲覧の理由については4.3.3で述べる。

4.3.3 未閲覧の理由

次に、公式ページを「見たことがない」とした回答者(未閲覧者)に対して、その理由を4肢選択で尋ねた結果を表3に示す。

閲覧していない理由としてもっとも多く挙げられたのは「公式ページがあることを知らなかった(71.3%)」であった。属性別に見ると、この理由を挙げた未閲覧者には、入学後半年しか経過していない1 回生が多く(72.3%)、公式ページの存在に関するアナウンスが不足していたことによるものであろう。一方で、次に多く挙げられた「興味がない(19.7%)」について属性別に見ると、1 回生は比較的少なく(23.3%)、2 回生以上の割合が多かった(73.4%：2～4 回生および大学院学生の合計)。

4.3.4 全体的な印象評価

既閲覧者のみを対象に、公式ページの全体的な印象について、「読み込み速度(遅いー速い)」「レイアウト(見にくいー見やすい)」「情報の量(少ないー多い)」「情報の質(悪いー良い)」の4つの観点から、1～5の5段階(5がもっともポジティブな評価)

による評定を求めた。その結果を表4に示す。なお、表中の「negative」割合は、5段階のうち1, 2に対する回答比率を合計したものであり、同じく「positive」は4, 5を合計したものである。

表示速度については、「遅い (35.8%)」との回答が「速い (17.2%)」のほぼ2倍に達する結果となった。特にダイヤルアップ回線経由で閲覧した場合、表示が遅いことはすなわち接続時間の増大、課金のアップにつながる。閲覧者に無用な出費を強いることのないよう、特に表示に時間がかかる画像やフレームの使用については、過度になっていないかどうか見直す必要がある。

ページのレイアウトについては、「良い (52.0%)」との回答が過半数に達しており、比較的良好な評価を受けている。

情報に関する評価では、量と質とで反応がかなり異なっている。量については、「少ない (43.3%)」との評価がもっとも多く、今以上の情報提供の充実を求める声が支配的である。一方、質については、「悪い (21.9%)」との評価と「良い (24.5%)」との評価が拮抗する結果となった。

4.3.5 各コンテンツの閲覧状況および評価

公式ページを構成する19のコンテンツ（トップページも含む）の「閲覧率」「充実度

表5 各コンテンツの閲覧状況および評価

コンテンツ	見たことがある	充実している	充実させてほしい
トップページ	84.9	10.1	3.9
最新情報	35.9	7.3	19.6
人間科学部あれこれ	43.1	15.2	7.8
人間科学部長挨拶	27.5	16.7	3.3
人間科学部の授業	40.5	11.3	15.7
人間科学とは？	46.4	12.7	9.8
講義の授業科目リスト	35.3	18.5	13.1
人間科学部で学べば	39.9	14.8	13.1
時間割とシラバス	34.0	26.9	11.8
講座紹介	60.8	18.3	36.6
教員紹介	50.3	18.2	22.2
卒業生の進路	41.2	9.5	23.5
人間科学研究科の紹介	38.6	1.7	14.4
組織	24.8	13.2	4.6
沿革	19.0	27.6	2.0
附属比較行動実験施設	15.0	34.8	2.6
人間科学部へのアクセス	33.3	19.6	5.9
ネットワークサポート	15.7	20.8	5.2
English Version	9.2	23.1	3.3

評価」「充実希望」について尋ねた結果を表5に示す。なお、「閲覧率」と「充実希望」率の母数は公式ページの既閲覧者数（公式ページを「見たことがある」とした回答者数）、であり、一方「充実度評価」率の母数は、各コンテンツの既閲覧者数（前設問で当該コンテンツを「見たことがある」とした回答者数）である。

まず、各コンテンツの閲覧率について検討する。トップページ（84.9%）の閲覧率をもっとも高いのは、通常他サイトからのリンクポイントとなっている箇所であることを考えれば当然の結果である。続いて閲覧率が高いのは「講座紹介（60.8%）」「教員紹介（50.3%）」であり、特に「講座紹介」については、専修決定、および各研究分野への分属を控えた2回生における閲覧率が高かった（68.3%）。一方で、これらのコンテンツと同様に学生にとって重要な情報であると考えられる「時間割とシラバス」の閲覧率は比較的低い数字（34.0%）にとどまっている。履修科目のオンライン登録が行えないこと、あるいは登録に必要な授業コードなどが掲載されていないことなど、紙メディア供給のシラバスに代えて利用されるほどの情報は含まれていないことが原因であろう。

次に、各コンテンツの充実度評価率については、表5を一見して分かるとおり、いずれも低い数字であり、残念ながら現状での公式ページの評価は非常に低いものと言わざるを得ないだろう。なお「人間科学研究科の紹介（1.7%）」についての評価が特に低くなっているが、これは調査時点でサブコンテンツがまったく整備されていなかったことが原因であろう。

また、各コンテンツの充実希望率について見ると、特に「講座紹介（36.6%）」の、次いで「卒業生の進路（23.5%）」「教員紹介（22.2%）」の充実に関するニーズが高いことが分かる。沿革、組織といった一般的な情報よりも、現に行われている研究・教育に関する具体的かつ up to date な情報を求める声が高いことになるが、これは調査対象者の属性を考えれば当然の結果である。

4.3.6 自由記述による評価

現在の公式ページに対する評価について、自由記述により具体的に尋ねた結果を、内容に基づいて分類したものを以下に示す。文章表現および表記を統一した以外は、代表的なコメントの原文をそのまま掲載している。質問項目の集計結果と呼応して、質量ともに内容の充実を求める声が多く寄せられていることが分かる。

自由記述による評価

- あまり内容を覚えてないがもっと充実させて欲しい。見た甲斐がなかった。正直なところ、情報量が少なく、あれだけではどんな学部かわからない。
- ずらーっと長いフレームいっぱい文字が並んでいても見にくい。もう少し写真やイラストが多ければ「みてみよう」という気になるかもしれません。
- 海外からアクセスしたら文字が見られなかった。全ての講座や全てのページにも English version を作ってほしい。
- もっと有用なページにしてほしい。たとえば、受験生が見て役に立つようなページとか、人科生が専攻をきめる参考になるようなページにしてほしい。対外的な目を意識しすぎているのか、カタイ。
- 現在の形でよいですから、完成させてもらえればと思います(特に人間科学研究科の紹介)。また、改訂されないのが残念です。時間割やシラバスなどは最新のものになればいいのですが。トップページなど、写真が上で美しいとは思いますが、そのために画面をスクロールさせないと次のページを選択する画面が出てきません。少し使いにくいです。題字と写真をもう少し小さくできないでしょうか。
- デザインがもう少しクールならうれしい。リンクのたどりやすさ、一覧性なども、工夫ほしい。
- これから受験する人達に人科の魅力が伝わるような homepage にして下さい。けっこうみんな homepage は見ていて、それをパンフより参考に使っている高校生も多いです。
- あるということを知らなかった。もっと学生に存在を知らせてほしかった。
- 人間科学部のパンフレットに載っている内容とダブっている。

4.3.7 公式ページへの要望

今後公式ページに掲載してほしい情報について、自由記述形式で回答を求めた。その結果を内容に基づいて分類したものを表6に示す。

特に目立ったのは、講座、および教官の具体的かつ最新の情報を掲載してほしいとの意見である。現在の「講座紹介」および「教員紹介」のコンテンツは、一年に一度発行される人間科学部案内パンフレットの内容をそのまま掲載したものであり、また、文字情報がほとんどである。このことが現コンテンツの「わかりにくさ」感を増幅していることは4.3.5でふれたコンテンツの評価結果も示唆するところである。

また、休講情報の掲載や、履修科目登録などの教務関係手続きのオンライン化など、学生生活をより便利にするために公式ページを活用したいとの意見も学生から多く出されている。公式ページ制作にあたっての当初目標は、人間科学部からの対外的な情報発信の場を「とりあえず」整備することにあった。それが達成されたとすれば、今後は対内的なサービスサイトとしての役割をも担えるよう努力するべきであろうし、実際 Web ページを利用してこのようなサービスを実現している大学もある⁵⁾。これを可能にする

表6 公式ページへの要望（自由記述）

学部全般	就職状況に関する情報の拡充 学生のナマの声を聞きたい 他大学（関連学科）とのリンク 受験生向けの分かりやすい学部紹介 紀要、年報 アクセスガイドの充実（バスの時刻表など） 英語ページの拡充
専修・研究分野	すべての専攻、研究分野のホームページを整備 最新の研究成果 映像を取り入れた紹介 各専修への配属学生人数
教官	顔写真の掲載 研究業績 最新の研究成果 客観的評価
入試	具体的な入試情報 編入希望者のためのページ
教務	単位取得ガイダンス 休講・試験情報（学外からの閲覧可能） 授業コードの掲載 教務関係手続きのオンライン化

ためには、当然事務方との緊密な連携が必要となるが、人間科学部のネットワーク環境が現状（研究スタッフと事務スタッフのLANが別系統）のままでは、実現可能性は低いと言わざるを得ない。

4.3.8 各専攻・研究分野のWebページ閲覧状況

人間科学部には、公式ページの他に、公式ではないが、各専攻・研究分野の責任で作成・公開されており、かつ公式ページの「講座紹介」コンテンツからリンクが張られているページが（調査時点で）14ある。これらのWebページのうち、一度でも見たことがあるものについて複数回答形式で回答を求めたところ、表7に示す結果を得た。

各専攻・研究分野のWebページは、全体的に閲覧率が低かった。Webページ設置が比較的早かった（1996年頃）適応認知行動学講座、社会心理学・対人行動学講座、行動計量学講座、臨床老年行動学講座などが比較的高い閲覧率を示していたが、それでも回答者総数の20%にも満たない数字であり、全体的に見れば認知度は非常に低いと言わざるを得ない。

加えて、本調査の自由記述において、「講座ごとの情報を、全体的に差がないくらいに詳しく紹介してほしい」「講座のページは、講座によってレベルが違いすぎ」など、Webページを設置している専攻、研究分野間にも質的、量的な格差があることを指摘

表 7 各専攻・研究分野の Web ページ閲覧状況

専攻・研究分野	閲覧率(%)
実験心理学	9.5
適応認知行動学	13.7
社会心理学・対人行動学	18.4
臨床老年行動学	13.7
交通行動学	7.0
霊長類行動学・比較行動発達学	5.7
行動計量学	16.5
感性情報行動学	7.0
比較文明学	4.8
人類学・国際文化システム学	4.4
教育システム工学・学習情報学	9.5
教育社会学・教育動態学	6.3
大学院社会学専攻	5.4
ボランティア人間科学	8.6

する意見もしばしば見られた。

あるいは、本調査とは別に、平成11年度の「心理学実験」を受講した2回生を対象としたアンケート調査⁶⁾によると、心理学実験受講生（有効回答数89）のうち、67.1%が研究分野の Web ページから情報収集を行っているが、そのうち29.6%は「講座を知るのにホームページは役立たなかった」と回答している。

4.3.5で述べたように、講座紹介の充実に対するニーズは高い。将来的には、公式ページの充実と共に、多くの（できれば、すべての）各専攻・研究分野について Web ページが設けられること、そしてそれらの認知度が高まることはもちろんのこと、有意な情報発信の場としての存在価値を認められるようになることが望まれよう。

4.4 論議

今回の質問紙調査の結果から、人間科学部公式ページは、入学後あまり時間が経過しておらず、十分な情報を与えられていなかった1回生を除けば、過半数の学部関係者が閲覧しており、その存在はある程度認知されていることが判明した。しかし、その内容については概して厳しい評価（批判）がなされていた。我々にとっては、これを真摯に受け止め、今後はこれらの要望やニーズを十分活かした Web ページ制作を目指すことが急務となる。

しかし、ここで問題となるのは、現在の公式ページの運営状況ではある。公式ページは、助手6名（行動系4名、社会系、形成系1名）から構成されるチームによって運営されている。もちろんすべてがボランティアであり、作成から管理、更新に至るまですべての作業が通常業務の合間を縫って行われているのが現状である。弁解めいて聞こえ

るかもしれないが、我々チーム当事者からしてみれば、現在のページ内容を維持するだけでも手一杯、今のままの体制でこれ以上の質や量を求められても応じかねる、というのが正直なところだ。

また、学部全体だけではなく、各専攻・研究分野の情報発信についても充実してほしいとの意見が少なからず見られたが、これには、各専攻・研究分野によるネットワーク環境の整備状況がまちまちであることが大きな障害として立ちはだかっている。人間科学部のネットワーク環境は、専攻・研究分野毎に大きくばらついており、ある研究分野ではUNIXを搭載したワークステーションが稼働していて、研究室LANも完備されているのに、ある研究分野では教授がメールを読む環境すらおぼつかない、という有様である。少なくとも、全専攻・研究分野でネットワークに接続できる環境が整備されない限りは、現状からの改善が見られるとは考えにくい。

現在の人間科学部のネットワーク環境は、「知識のある」かつ「物好き」な人の「ボランティア精神」によって維持されていると言っても過言ではない。この体制が維持される以上、その情報提供には自ずと限界があるだろうし、その「お節介な」人がいなくなれば即機能停止に陥る危険性もなくはない。質・量共に高いレベルの情報が提供され続けるためには、まず第一に、Webページの運営管理そのものが学部の「業務」として認識され、十分なサポート体制のもとで行われることが必要である。また、有意義な情報提供のためには、現在活動しているチーム以外の教官や学生の協力を積極的に求めていくことも必要であろう。各専攻、研究分野毎のWebページに関しても、単一サーバによる一括管理や、全専攻・研究分野について統一フォーマットによる「ひな型」ページを作成し、その後の更新についても各専攻・研究分野単位で容易に行えるような体制を整備することによって、必要以上に特定の個人やチームに負担が偏ることのない、より柔軟な運営体制が確立されることが望まれる。ただ、これを実現するためには、ネットワークに関する最低限の知識が、学部のより多くのメンバーによって共有されることが必要である。

なお、本章において報告した質問紙調査は、人間科学部に現に属する教官、学生を対象としており、あくまでも対内的な評価（の一部）を検討したに過ぎず、対外的な評価については考慮されていない。むしろ、公式ページによる情報発信は、4.3.7で述べたような対内的サービスのみを主眼とするものではない。むしろ国立大学の独立行政法人化が云々される昨今、大学・大学院の受験生や、人間科学部の研究に注目する企業人・他大学の研究者などに対して、積極的かつ有意義な情報公開を行うことは学部としても急務であり、そのために公式ページの果たす役割は大きい。今回収集できなかった対外的評価データについては、現在（1999年12月まで）実施中のWebページ上の質問紙調査⁷⁾のデータに基づいて検討する予定である。

注

- 1) 大阪大学公式ページの URL は <http://www.osaka-u.ac.jp/>
- 2) ただし、アメリカ合衆国は特に国名をつけない。
- 3) 質問紙調査に関する問い合わせは、三浦（人間行動学講座／社会心理学・対人行動学研究分野、E-Mail: asarin@hus.osaka-u.ac.jp）宛にお願いします。
- 4) 調査の趣旨を了解し、質問紙の配布・回収に快くご協力くださいました、榎本博明助教授、狩野裕助教授、川端亮助教授に感謝申し上げます。
- 5) 例えば中央大学法学部（URL http://www.themis.tamacc.chuo-u.ac.jp/chuo_law/index.html）など。
- 6) 中道正之助教授により実施された。本論文で言及した集計数値は、1999年10月12日に心理学実験に関係する研究分野の教官に対して配布された資料に基づいている。
- 7) URL <http://koko15.hus.osaka-u.ac.jp/~asarin/survey/index.html>

参考文献

- [1] 日本インターネット協会編(1999)「インターネット白書'99」、インプレス。

参考 Web ページ

- [1] 大阪大学：<http://www.osaka-u.ac.jp>。
[2] 中央大学法学部：http://www.themis.tamacc.chuo-u.ac.jp/chuo_law/index.html。

A bumpy road to making official webpages of Faculty of Human Sciences

Akira HARADA, Asako MIURA, Ritsuko NISHIBATA
Ikko SHINOHARA, Shigeto TANAKA and Kei HIRAI

We are concerned with making the official webpages of Faculty of Human Sciences. The contents of the webpages are the introduction of curriculum, facilities, labs, teachers and so on. The information of entrance examination isn't mentioned. The reason is that the information is released on the official webpage of Osaka University.

To check the situation of the official webpages's access, we analyzed the HTTPD's access logs from December, 1998 to October, 1999. As the result, we can't hope that the access counts is increased satisfactorily. We suggested that the cause is static contents of the webpages. To explore how we should update the webpage measuring the reading rate and evaluation of the contents was given to the faculties, undergraduate and graduate students. The primary findings obtained were as follows: (1)the existence of official webpage has not been well-known to undergraduates (especially freshman), (2)Evaluation of the contents was not so good on the whole, (3)most of respondents requested "original" information of webpage.

It is believed that the original goal setting up the official webpage has been achieved. For the future, continuous improvement of the contents should be needed.